

平成27年度石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議（第1回）  
意見交換概要（視点別）

○視点：石巻地域の産業（職業）理解度の向上・勤労観の醸成

【義務教育課程】

- ・義務教育課程こそが一番の問題。地域住民の意識を変えることにより、子供たちの地域に対する価値観が変わり、初めて地元に着する。また、子供の生活習慣まで掘り下げて取り組む必要がある。

【義務教育課程～高校生】

- ・震災後、地元で尽くしたいという生徒も多くいる。地域の復興・魅力が、義務教育～高校まで痛切に伝わるようにしていかなければならない。

【高校生（指導教職員含む。）】

- ・社会の役に立つ人間を作るという意識を先生方が持ち、それを地域企業・住民が支えていく必要がある。

【大学生】

- ・低学年からの取組の効果が大きい。

○視点：職業選択肢の拡大

【大学生】

- ・重要なのは教員等に対する働きかけ。教員や事務職員に地元企業の魅力を発見する機会を作ってほしい。

○視点：就職後の定着対策

【高校生（指導教職員含む。）】

- ・概して生徒は好待遇のところを探す傾向があるが、離職率を下げるため、企業の説明会だけでなく、職業に対する心構えも醸成していく必要がある。

○視点：経営者の意識改革

- ・働く側も努力が必要だが、企業側にも職場環境の改善に取り組んでもらう必要がある。
- ・経営には中長期的な視点が必要。教育は時間がかかる。経営者の教育には、長期的に取り組む必要がある。

◎ 県の取組の方向性

- ◆本会議の構成員の皆様からの情報提供に基づき、資料の施策構成図（マトリックス）の充実を図る。『情報共有』
- ◆本会議の方向性をコンソーシアム会議（部会）で掘り下げながら、地域としてのガイドライン（指針）を形成する。『地域合意形成』
- ◆地域の着実な取組を外に向けても発信していく。『情報発信』・『認知度向上』